

会報

青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会

白亜の会

二〇二六年 四月二十五日 発行

第17回 白亜の会総会・懇親会

校友白亜の会会長 山口 菜穂子



本日は、学期末のご多用の中、この総会に参加いただきましてありがとうございます。

ご来賓の方々にも総会に参列いただいております。

青山学院院長山本与志春先生、稲積宏誠学長先生、校友会副会長西田園江様にもご臨席賜り、感謝申し上げます。今回は稲積学長先生にご講演を賜る予定でございます。重ねてお礼申し上げます。さらに、教職支援センター山崎

順子様にもご多用の中参加

いただいております。いつも

もお世話になっております。

ありがとうございます。

今年も青学出身者はお正

月に幸せになりました。

第102回箱根駅伝三年連



「ゆるスティック」佐藤 航陽 著

【ゆるスティック1】

相反する価値観の生き方が求められている。競争は疲れるけど、世間に流されたくはない。

自分の価値観を大切にしながら柔軟に生きる＝「ゆるスティック」と「ゆるさ」を兼ね合わせた「ゆるスティック」な生き方がふさわしいと考えます。

周囲の評価に左右されず、旅行僧のように自分を磨き続ける「ゆるスティック」がある。なのに自分の価値観を押し付けたい柔軟さも備えている。

自分の「やるべきこと」を明確にし、そこに集中すれば「がんばればすぐに成果が出るはずだ」と思ってしまう。意気込みと結果が出ないときに燃え尽きてしまうでしょう。

一方、「がんばらない生き方」では、目標を設定し進んでいくのは難しい。ゴールを急がずに楽しんで努力を継続するスタンスが今の時代にふさわしい。

続九度目の総合優勝！おめでとうございます。今年は「輝け！大作戦」本当に輝いておりました。TVの前で大興奮して大声出していた一人です。

この頑張り、粘り強さ。レジリエンスの大切さを青学陸上部は教えてくれています。向上心、逆境に強い、しなやかでたくましい

心という非認知能力の大切さを再認識すべきです。

このあきらめない精神力とそれを実行する力を体現する青学メソッドに学ぶこと、それを上手に表現する言葉を探していました。

そこに、「ゆるスティック」のすすめ に出会いま

した。

必死になるのは嫌だ。

かつこ悪い。でもがんば

らない生き方も違う。こ

の相反する価値観を受

け入れる柔軟な思考、生

き方のヒントがあるよ

うに思えました。

この「ゆるスティ

ック」の思考は「多様性を

受け入れる力」包摂性」



柔軟性にもつながると考えます。白亜の会では、「教員採用試験対策講座（補講）」でこのよう

な生き方も伝えていきたいと考えています。

現在の講座（補講）の成果として、お蔭様で、合格率は、なんと86%！かなりの手応えを感じています。これも講師の皆様のお蔭です。ありがとうございます。

青学は一人一人のもつ異なった賜物を大切にし、積極的に皆の幸せ、Well-Being を追い求めていく、それを支え、応援

する白亜の会で

いたいと思いま

す。地の塩 世の

光 今後とも皆

様のご支援をよ

ろしくお願いい

たします。



古い価値観をアンインストールして「ゆるスティック」の空き容量を増やす

古い価値観	新しい価値観
努力は報われる	努力が報われるわけではない
周りのせいにする	自分ができていることを考える
自分1人の責任にする	自分や環境の影響を考える
リスクをゼロにする	リスクを前提にする
失敗を避ける	失敗のプロになる
すべて合理性で考える	合理性にも限界があると考ええる

《講演会の記録》

二〇二六年三月七日 第一七回 総会 講演より

「青山学院150周年のときに

歴史とキャンパス変遷について
感じたこと学位授与式で学生に話そうかなと
思っていること」

青山学院大学学長 稲積 宏誠



1. 青山学院の歴史と「幻の大学昇格計画」

青山学院がかつて直面した歴史的なターニングポイントについて話したいと思います。

- ・ 連合大学構想と独立の道 以前、青山学院は他校との協力体制（連合大学構想）を検討していました。が、大学令の施行を機に、独自の大学を開学する動きへと舵を切りました。
- ・ 一九二〇年の断念 一九二〇年には「文学部」と「商学部」の設置を理事会で決定していましたが、推進役だった当時の院長の急逝

や関東大震災の甚大な被害により、旧制大学への昇格申請を断念せざるを得ませんでした。

現代への繋がり！ 当時、他大学が旧制大学としてスタートする中で後れを取った形となりましたが、現在はその遅れを感じさせないほどの発展を遂げ、新制大学として非常に稀有な存在感を示していると言つてよいと感じています。

2. 卒業式に向けた式辞の内容を検討

「批判との向き合い方」

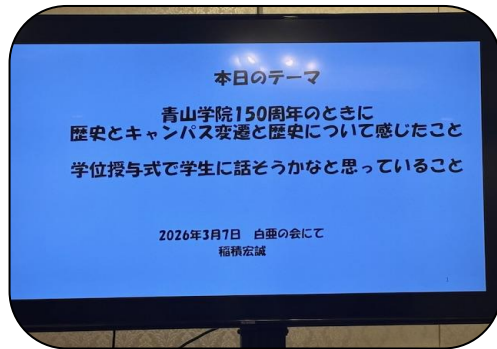
学長が卒業生へのスピーチ案をAI（人工知能）に相談しながら作成したエピソードです。現代の若者が抱える不安に対し、どう語りかけるべきかが示されました。

現代の学生の傾向

- ・ 授業中やゼミで当てられることを「晒し者」「いじめ」と感じてしまう学生が一部にあり、他者を批判することを極端に避ける傾向があります。

批判（クリティック）の本質

- ・ 「デイスる」との違い：「デイスる」は人格を否定することですが、「批判」は成果物や行動の質を上げるためのプロセスです。



- ・ 社会での評価！ 社会では「間違えない人」よりも、批判を受け止めて「修正できる人」が評価され、信頼されるリーダーになります。
- ・ 批判する側の責任 感情を乗せず、具体的な改善案を提示することが「技術」としての批判には不可欠です。

AIとの対話から得た教訓

- ・ 伝え方の工夫 SNS 批判などの「若者論」で一括りにすると学生の心は離れてしまいます。静かに現実を提示し、最後は相手の判断に委ねるスタンスが「刺さる」メッセージを生むと、AIのアドバイスを通じて得心しました。

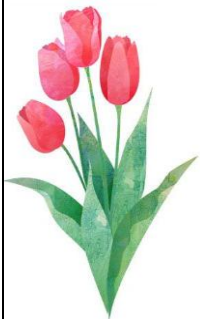
AIの精度の高さに驚きつつも、それを活用して「知識や学歴よりも、他人の言葉を聴き、批判を成長の材料にする力」を学生に伝えたいと思っております。今日の話からAIとの付き合い方を考える契機になればと思っております。



集合写真



第 17 回青山学院大学卒業生教職員校友白亜の会総会・懇親会 出席者



《総会及び懇親会の「報告」》

《第17回 総会 議案事項》

- (1) R7 年度活動報告
- (2) 会計報告
- (3) ホームページの運営について
- (4) R8 年度役員について
- (5) 会則について
- (6) R8 年度 活動予定について



6 つの議題 全て滞りなく承認されました。
変更点としては、

- ① 副会長に谷戸玲子さんが就任しました。
- ② 令和 8 年度大学より予算が計上されれば、念願の『教員採用試験対策テキスト』を作成する可能性が出てきました。

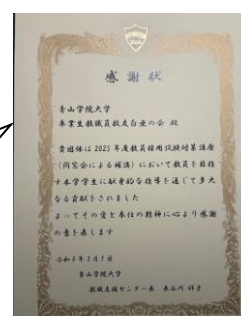
令和 7 年度の受講の状況として、受講生は 56 名。最近の受講生の傾向として、卒業してからも受講する方が増えています。合格率 86% でした。

対策講座（補講）の他に「先輩に学ぶ」という研修会を実施しています。先輩の実践を聞いて、その後、先輩達と現代の教育課題について話し合う時間も設けています。参加した学生からは大変好評を得ております。

これらの実践に対し、大学より「感謝状」を頂きました。



大学より
「感謝状」を
頂きました。



《懇親会のようす》

開会の言葉



- 1 祈祷
 - 2 会長挨拶
 - 3 来賓挨拶
 - 4 乾杯
 - 5 歓談
 - 6 出席者より一言
 - 7 中締め
- 閉会の言葉

今年度は来賓の方々も含め 26 名の参加となりました。青山学院院長山本与志春先生には毎年のように参加していただき、大変光栄に感謝しております。そして、青山学院を率いていく熱い想い、子供たちへの愛を直接伺える幸せを感じております。

会員のメンバーからも、「山本院長先生や稲積宏誠

学長先生と直接お話できる貴重な機会がここにある。嬉しいですよ。」という声が寄せられています。

校友会からは、西田副会長が3年連続で参加くださっています。とても白亜の会に親しんでくださり、いつも楽しいお話をしてくださいます。

出席くださった会員からの一言一言も、みなさんのそれぞれの体験をお話くださるので、勉強になります。以前のこの白亜の会の講座（補講）の様子だったり、現在の所属校の生徒たち、保護者、上司の話だったり、私学の小・中・高校の事情だったり、現在されているボランティア活動での話だったり、ご家族やご趣味の話だったり、視野が広がります。しかも、それぞれの教育論を展開してくださるので、自画自賛となりますが、改めて学びの多い会だと自負しております。

教員になったばかりの方から、卒業して50〜60年経つという方が一堂に会せる懇親会は面白い、興味深いinterestingです。



会の終わりには、カレッジソングを3番まで歌いました。「♪むらさきにおう さいこうのもり♪ ゆめさめやらぬ みどりがおかの♪ かすみにそびゆ わがはくあじよう♪」すーっと学生時代に戻るこの感覚、不思議で心地よいです。



是非、お時間が許す会員の方々には、一度参加していただきたいです。そして、白亜の会の活動に何らかの形でかかわっていただけると有難く思います。お待ちしております。

来年度の総会・懇親会の予定
令和9年 3月6日(土) 午後3時〜

※付録※



この写真は、一月十日に山本与志春院長と稲積宏誠学長にご挨拶に行つた時の写真です。院長室の前には駅伝優勝をお祝いするお花がたくさん飾られており、

それは、それは、見事でした。

学長室では、「明治神宮野球大会」の優勝旗の前で撮影させていただきました。この優勝旗は総刺繍の重量感ある特別なもので、大変立派でした。



※編集後記※

総会と懇親会は、白亜の会の会員が集える年一回の大切な時。今後も楽しく学びのある会にしたい。